

インスタレーションから学ぶ空間の創造 吉田 2010-06-29

インスタレーションとは？

1970年代以降一般化した、絵画・彫刻・映像・写真などと並ぶ現代美術における表現手法・ジャンルの一つ。ある特定の室内や屋外などにオブジェや装置を置いて、作家の意向に沿って空間を構成し変化させ、**場所や空間全体を作品として体験させる**芸術。ビデオ映像を上映して空間を構成することもあれば（ビデオ・インスタレーション）、音響などを用いて空間を構成する（サウンド・インスタレーション）こともある。

空間全体が作品であるため、鑑賞者は一点一点の作品を「鑑賞」というより、作品に全身を囲まれて空間全体を「体験」することになる。

鑑賞者がその空間を体験（見たり、聞いたり、感じたり、考えたり）する方法をどのように変化させるかを要点とする芸術手法である。最初はおもに彫刻作品の展示方法の工夫や、ランドアート（岩、土、木、鉄などの「自然の素材」を用いて砂漠や平原などに作品を構築する美術のジャンル、またはその作品のこと）・環境芸術の制作、パフォーマンスアートの演出に対する試行錯誤から誕生したが、次第に彫刻などの枠組みから離れ、独自の傾向を見せるようになったため独立した表現手法として扱われるようになった。

インスタレーションを制作するにあたり、映像、彫刻、絵画、日常的な既製品（レディメイド）や廃物、音響、スライドショー、パフォーマンスアート、コンピュータなど、どのようなメディアを使用するか、また美術館や画廊などのギャラリースペース、**住宅など私的空間**、広場・ビルディングなどの公的空間、人のいない自然の中などどのような場所を用いるか、などは特に問われない。



オラファー・エリアソン / Olafur Eliasson

1967年コペンハーゲン生まれ、現在ベルリンとコペンハーゲンに在住。

1989年から1995年まで、王立デンマーク芸術アカデミーで学ぶ。

1995年ヴェネツィア・ビエンナーレに初参加以来、シドニー・ビエンナーレ、サンパウロ・ビエンナーレ（いずれも1998年）、横浜トリエンナーレ（2001年）など、世界的な国際展に招かれている。

欧米の主要美術館において個展を多数開催する中、2003年、テート・モダン（ロンドン）のタービン・ホールで発表した《**The Weather Project**(ウエザー・プロジェクト)》は、特に大きな成功を納め、日本においても広くその名を知らしめることになった。自然界におけるさまざまな要素—光、影、色、霧、風、

波を作品に取り込み、鑑賞者の視覚や認識を揺り動かすことについて定評がある。

パブリック・アートの代表例としては、2008年にニューヨークのウォーター・フロントに4基の人工の滝を出現させ、作品をとりまく環境との関係をダイナミックに表現したものとして記憶に新しい。

他に、自然界の様々な現象や形に関心を持ち、鏡面の多面体の内部に入り、光や像の屈折を楽しむ作品などもあり、そのうちのひとつ《**La situazione antispettiva**（反視的状況)》(2003年)は金沢21世紀美術館のコレクションにも加えられている。

2009年10月にはハラ ミュージアム アーク（群馬）で新しい屋外設置作品も公開された。

参考文献

Olafur Eliasson

<http://www.olafureliasson.net/index.html>

ウィキペディア

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%A9%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%BC%E3%83%BB%E3%82%A8%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%82%BD%E3%83%B3>

You Tube

<http://www.youtube.com/watch?v=dFOphuPqMo>